中央市民サービスセンター
センタースだより
令和3年 3月
No.05
［発行］　中央地域づくり協議会

まちづくり推進事業　情報プラットフォーム ホームページ「まちプラあきた中央」特集号

〈秋田市中央地域　千秋公園からの夕日〉

「まちプラあきた中央」で地域の手助けを

中央地域づくり協議会　会長　宇佐見 昭一

日頃、中央地域づくり協議会には多くの方々からご支援、お協力を賜り、深く感謝申しあげます。

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、落ち着かない日々が続き、秋田は比較的感染者も少なく安堵しているところですが、首都圏や他県ではまだまだの感があります。マスク・手洗い・三密を極力排して感染拡大に防止に努めたいものです。

さて、新元号の令和も早や３年、央地域づくり協議会が発足して７年、センタースが創立されて６年目となり、皆様のお陰をもちまして、順調に運営が出来ている事に深く感謝申し上げます。

当協議会のまちづくり推進事業として、中央地区のまちづくりについて、情報発信ツール情報プラットフォーム「まちプラあきた中央」のホームページを、令和２年９月に報道発表と共に公開しました。

パソコン・タブレット・スマホで、「まちプラあきた中央」を検索し、ご覧になってはいかがでしょうか。

秋田県立大学、ノースアジア大学などの大学生を情報取材の「まちプラ大使」として迎え、中央10地区の、「地区のシンボル写真・人口・世帯数・地区の歴史・食・名物・ハザード情報・地区風土（祭・イベント）」等の情報を日替わりで発信しております。（10日に１回各地区の情報が更新されています）

令和３年３月11日で東日本大震災が発生して10年となりました。完全復興はまだ時間がかかる様に感じられます。

頻繁に起こる自然災害発生に明日はわが身と思い、日頃からの災害に対する準備・心構え・ハザードマップの確認・自助・共助などを備えておければ良いのではないかと思っております。今回の「まちプラあきた中央」特集号は、パソコンやスマホをご利用いただけない方々のために、センタースだよりとして紙面にてその一部をご紹介する事にいたしました。「まちプラあきた中央」も、その手助けになれたらと持っております。

当協議会では皆様のご協力と知恵をお借りしながら、地域づくりを提案していきたいと思っておりますので、ご支援、ご協力お願いいたします。

ホームページ「まちプラあきた中央」

まちづくり事業を推進しております
まちプラあきた中央　検索

中央地域の魅力を発信中!

●「まちプラあきた中央」とは

「まちプラあきた中央」とは、秋田市中央地域における「情報」と「人」の新たな循環を生み出すことで、住民主体の地域づくりを推進する「情報プラットフォーム」です。秋田市中央地域は10地区で構成され、各地域の魅力を**「食べる」「歩く」「知る」「参加する」**の4つの切り口で発信していきます。

◀サイト閲覧はこちらのQRコードを携帯電話／スマートフォンのカメラから読み込みいただくか、https://machipura.xsrv.jp/01/を検索バーに打ち込んで検索してください。サイトは携帯、スマホ、パソコン等で閲覧できます。

私たちPR大使が記事を作成しています!(令和2年度)

※令和3年度は一部変更があります

築山地区

保戸野地区

中通地区

泉地区

旭北地区

旭南地区

寺内小地区

川尻地区

八橋地区

茨島地区

各地域のご紹介

旭南地区

旭南を知る

●旭南地域の歴史

旭南地区はその東側から南側にかけて、風情があり市民に愛される川「旭川」が隣接して流れており、江戸時代参勤交代のルートとして、「羽州街道」や、遠く北陸街道を経て旧中山道にも繋がる「酒田街道（北国街道）」等の歴史的評価の高い街道があり人や物の移動が盛んでした。明治38年に奥羽線が全線開通しましたが、昭和13年雄物川放水路が完成するまでは雄物川と旭川を利用した舟運が主で、仙北方面から米穀類・木炭・薪等の生活物資を刈穂橋近くの船着場で荷上げするという時代が長く続いていました。これにより馬口労町をはじめ鍛冶町、酒田町、城町、新城町、川口、室町などこの界隈全体が関連産業で大変な賑わいとなり、学校教育も盛んで明治7年室町に室閭（むろ）学校、上川口に河陽学校が開校し、明治9年には鍛冶町上川反に遐通（かじ）学校が開校されました。

そして明治17年3校を統合し旭南小学校（第一次）が開校、明治22年秋田市誕生後の明治42年には秋田市立旭南小学校（第二次）が開校しております。明治10年には馬口労町戸長役場が松倉家に置かれています。現在の馬口労町通り（旭南小学校通り）が酒田街道（北国街道）となるわけですが、羽州街道との合流点が旭川にかかる刈穂橋の西側にあり、酒田街道（北国街道）の最終地点でもあることから街道ファンの聖地となっています。

●旧松倉家住宅

松倉家は、寛延2年（1749）頃に始まる商家で、当初、油屋を営んでいたが、明治18年（1885）頃に田を購入して地主となった。住宅のうち主屋は、明治37年（1904）の大火で類焼し、明治39年（1906）に再建された。主屋は妻入の大型町家で、片土間二列型の間取りに鍵型に張り出した上座敷が付く。表側にコミセの名残である前土間に庇をつけ、続いて引き大戸の奥に通り土間を蔵前まで通す。通り土間に面して店座敷、中の間、オエを並べ、その背後に下座敷と二部屋を配置して、最奥に台所を置く。米蔵と文庫蔵は土間を挟んで、主屋の背後に並ぶ。両蔵の規模はほぼ同じであり、棟札によれば米蔵が天保10年（1839）6月18日、文庫蔵は慶応2年（1866）7月の上棟である。土蔵2棟とその周囲の土間には、主屋に接続する覆屋をかける。主屋は、正面外観及び片土間二列型間取りのよく整った配置となっており、江戸時代後期以来の久保田外町の伝統的町家の特徴を継承している。また、県内に現存する伝統的町家の中では大型で改変が少なく保存状態がよい。江戸時代末期の土蔵2棟は、建築年代が明らかであり、他の土蔵建築の年代を比定する指標となる

【詳細情報】名称：旧松倉家邸宅（秋田市指定有形文化財）　住所：秋田市旭南二丁目7番29号　管理者：秋田市

旭北地区

旭北を知る

●旭北地区名前の由来

明治42年に旭小学校の学区が旭北と旭南に分割されたことで「旭北小学校」と改称。この旭北小学校の通学圏内を旭北地区と呼んでいる。特に新国道を挟んで江戸時代から続く商人や職人の多い歴史ある外町（とまち）とその外周の寺町がある。また官庁街と周辺の住宅街もあり、旭北地域は大きく分けてこの二つに区分されている。

●この苗字、よく見かけません?

旭北地区を散策すると、お店の看板などでよく見かける苗字があります。そう、「那波」さん…!!!「那波紙店」「那波伊四郎商店」「感恩講創設者　那波祐生氏」なんとなーく那波さんが多いなぁ、でスルー出来ない歴史があることを皆さんはご存じでしょうか?

那波家は様々な商品の販売を手掛けている秋田を代表する老舗です。伝承によると、那波家は京都から移住したと伝えられています。京都では室町の両替屋でした。1615年の大坂夏の陣（詳しくはこちら）に巨額の軍用金を秋田藩に融通し、慶安3（1650）年頃には、秋田藩京都屋敷の御用商人になったと考えられています。御用商人となってから、京都の那波三郎右衛門が「佐竹を慕って」と秋田に下向したのは宝永7（1710）年頃であると考えられています。

その後何年か経ち、茶町扇の丁に店を構え、那波祐生氏の現代的な経営手腕により、殖産興業の波に乗ることができ、後に絹方として大成。現代まで繁栄が続くことに。こうして城下屈指の豪商になりました。

話題は変わり俵屋火災について。感恩講の回でも触れた俵屋火災では、町の人々が那波家を火から守りました。それはなぜか。豪商としての力はもちろんですが、感恩講といった慈善事業に力を入れていた代々の徳があったからです。「那波焼ぐな!」と叫ぶ声にたちまち何百人もの人が、那波家にめがけて駆けつけ、さらには消防団などが那波家周辺の屋根へ上り、火の粉を払いました。当時、那波家の向かいには老舗菓子店栄太楼があり、栄太楼をも火から守ることができたそうです。

栄太楼は以来「那波のご恩は一生忘れまじきこと」と子孫代々に伝えられているとか。

茨島卸町地区

茨島地区を知る

茨島は新屋から雄物川を挟んが対岸にある地域です。

かつて、この地は荒れ地で水害も多々あるような地域でしたが、埋め立てによって人が住めるような土地となりました。そして、三菱マテリアルの工場整備に伴ってで工業地域としても発展し現在のイオンタウンが出来てから、より一層住みやすく便利になりました。

また、旧経法大（現ノースアジア大学）がかつてこの地区にあり、現在の場所に移転してからは跡地にパチンコ店が並ぶようになりました。工場や大規模なお店が増えたことで街が夜でも明るい街へと変貌しました。

●秋田市夏まつり雄物川花火大会

雄物川の河川敷で毎年行われる雄物川の夏の風物詩として知られる花火大会です。この花火大会は、地元の中学生が考えたデザインを花火師が作り上げ実際に打ち上げるといった、まさに地元の協力あって成り立っているイベントです。

●雄物川河川敷

茨島と新屋を隔てる大きな雄物川を散歩してみてはいかがでしょうか?休日には子どもから大人まで老若男女問わず様々な人が河川敷の広場でキャッチボールやバレーボール、バドミントンなどの活動を楽しんでいます。犬の散歩をしている人も目立ちます。飼い主同士での出会いなんかもあるかもしれませんね。夜になると、花火をする人もいます。

※芝生が近いので火事にも特に注意して楽しみましょう。付近には地面が砂利の場所もあるので花火はそちらで楽しんでください。

川に沿って長く続く一本道はサイクリングにも最適!心地良い青空のしたでのんびりしたり、時には体を使って遊んでみてはいかがでしょうか??

寺内小地区

寺内を知る

●「寺内」の由来

平成2年八橋小学校の狭歪化に伴い新たに寺内小学校が作られた時からこの地区が始まった。

●寺内小学校

平成2年の創立以来、創立31年目を迎えた。学校教育目標を「心ゆたか で たくましい 子どもの育成」とし学校・地域づくりに大きく貢献してきた。また、教職員や子ども、保護者・地域の方々からは、「太陽の学校」と呼ばれて親しまれており、学校教育目標の実現を通して、一人一人が光り輝く「太陽の 学校」づくりを目指している学校である。

学校教育目標の実現及び「太陽の学校」の創造にあたっては、目指す子どもの姿を「思いやりの心をもち協力し合う子ども」「よく考え進んで学習する子ども」「根気強く、最後までやり抜く子ども」と設定し、これまで築いてきた保護者や 地域の方々とのつながりを基盤に、様々な教育活動全体を通じて、その実現を目指します。

●草生津川

秋田市の泉地区、八橋地区、寺内地区にまたがて流れている草生津川。コスモスロードや桜並木など自然いっぱいの散歩道といえば間違いなくここでしょう。

並木道には猫が住み着くエリアがあるそうで、子猫達を探してお散歩するのもアリかも!!

泉地区

泉を知る

●泉の起源

定かな文献があるわけではないが、村の名前としては江戸時代以前は「泉郷村」以後は「泉村」と史記にある。泉山（五庵山）から湧き出る豊富な水量は、国替え後の佐竹義宣によって（天徳寺が泉村に移転建造されたのが1625年）泉地帯の堰が改修・延長され、広く水田地帯の開発が進んでいった様子が記述されている。

●住宅地建設前の泉地区

泉地区に住宅が建ち始めたのは昭和30年代後半であったが、それ以前は一面が田圃であった。高層建造物がなかったから遠くの高清水公園や楢山地区の家並みの風景が見られた。

泉の東側、外旭川水口には秋田鉄道管理局管内随一の「操車場」があり、昭和39年には貨物専用駅として「秋田操駅」と改称し、同40年には全面開業した。その敷地は後年には上り西部の一部を住宅用に分譲。泉菅野ニュータウンとして住宅や福祉施設の建設が行われ現在に至っている。

●泉学区の形成・発展

昭和54年に新たに泉小学校が創立された。これに伴い学区の関係諸団体、泉中学校、泉地区コミセン等の公共機関が次々と創設され、地域の発展に大きく貢献した。

昭和51年の土地区画整理事業をが24年の時を経て平成11年に完成し、閑静な住宅街になった。同時に、ハミングロード(新緑の道・桜の道・果実の道)も完成し、近隣公園、街区公園の充実と合わせて住みやすい住宅地になった。平成元年から続いている「泉の夏まつり」は手作りの地域祭りとしては県内最大級となっている。

福祉施設の充実、泉外旭川駅が令和3年3月に開業し、秋田市の中心住宅地としてますますの発展が期待されている。

八橋地区

八橋を知る

●八橋地区の歴史と由来

江戸時代初期に旧羽州街道が整備され、今の日吉八幡神社が遷座した頃から住民が増えた。やがて街道沿いに茶店が立ち並び、芝居興行が行われるなど、城下の町人が集う行楽地として賑わいを見せた。

●地名の由来の二つの説

①以前八つの橋があった、②坂上田村麻呂の射った矢が走り落ちたため「矢走」と呼ばれた、他にも矢橋・谷橋などと記されていた。

地域には伝統産業も多くあり、代表されるのが八橋人形である。

●八橋人形

江戸時代から平成にいたるまでの約200年間この地域で「八橋人形」が作られてきました。重厚な土の感触と素朴な色合いが秋田市民にとどまらず全国の人形愛好家にも愛されてきた土人形です。

平成26年に最後の職人が亡くなり後継者不足の問題から廃絶の危機に立たされましたが、これを惜しむ市民有志の活動により平成27年4月「八橋人形伝承の会」が発足し現在まで守られてきました。地域の八橋人形伝承館では人形の製作、販売、体験会等幅広く活動しています。

【詳細情報】八橋人形伝承館　住所：〒010-0976 秋田市八橋南1-8-2　秋田市老人福祉センター（ふれあいセンター）内　TEL：090-5184-7364（担当　梅津さん）

中通地区

中通を知る

●中通の歴史

中通地区は、久保田藩主佐竹氏の居城であった久保田城南側正面に位置し、藩主一門や高禄の家臣が在した侍町に相当します。

正式な「中通」という地名は、1966年（昭和41年）の住居表示実施に伴って作られた新しい地名です。1607年（慶長12年）に久保田城下に新設された「中通廓」が由来ではないかといわれています。

現在中通地区は、1丁目から7丁目まであり、人口はおよそ8500人、世帯数はおよそ4500世帯となっています。

中通地区は、１丁目にはエリアなかいちや秋田キャッスルホテル、２丁目にはフォンテ秋田やアトリオン、４丁目には秋田市民市場、７丁目には秋田駅や秋田ステーションビル・アルスなどたくさんの商業施設が含まれる地区なのです。

●「秋田の台所」　秋田市民市場

青果や乾物、水産物から精肉店までなんでも揃う場所といったらここ市民市場です!中には100円ショップやレストラン、カフェまで軒を連ね、旬の美味しいものを提供しています。市場内はとても広く、ぷらっと出向いて気ままに買い物をするのもおすすめ!

「秋田の台所」と呼ばれており、秋田市民のみならず市外からの買い物客や外国人観光客にも人気があります!

【詳細情報】秋田市民市場　住所：〒010-0001 秋田県秋田市中通4丁目7−35　TEL：018-833-1855

築山地区

築山を知る

●築山地区　名前の由来

築山地区と一言でまとめていますが、実は二つの地域を合わせた呼称になっています。もともとあった築地地区と楢山地区の二地域を合わせて築山と呼ばれる地域になりました。

『**築地地区**』

築地とは、埋め立て地という意味があります。長野（市民市場･NTT）下の湿地を楢山富士山の土を舟で運んで埋め立てられた地だそうです。

『**楢山地区**』

楢山は、城下町の外廓（そとくるわ）として侍町・足軽町でした。由来は「金照寺山」の古名だそうです。

●築山小学校

明治五年に太政官の小学校告諭が発せられ、秋田県公立小学校表には築山地区に以下、三つの学校が存在していた。（築地学校、楢山学校、楢村学校）その後、地域の人々の教育の発展へのさらなる期待に応えるべく、より大きな規模での教育を目指して、明治16年6月に築地学校と楢山学校の二校を統合し、現在に残る築山小学校の元となった。文武の道を引き継ぐ、学問の築山、武道の築山と言われており「剛健の気風」をモットーとして幾多の子弟が巣立っていった。開校記念日は11月1日である。

●太平川と橋

築山地区南部を流れる大きな川をご存じですか?川の名前を太平川といいます。太平川にかかる橋、東から順に百石橋、愛宕下橋、太平川橋、大太平川橋があります。豊かな草木が川沿いに生い茂り、野生の白鳥が飛来する自然をたっぷり感じることができる気持ちの良い場所です。春には満開の桜が川沿いを彩り、桜ロードはとても綺麗です!花見をするのに絶好な穴場スポットとして訪れてみてはいかがですか?

川尻地区

川尻を知る

●川尻の歴史

川尻は古くから川尻村と呼ばれていたが、明治22年町村制により南秋田郡川尻村として発足した。その後大正10年頃から秋田市との合併が打診され交渉の結果大正15年4月に秋田市に編入され秋田市川尻町となった。当時の人口は2,818人、戸数は553戸であった。

現在川尻地区内には、裁判所、気象台等の国の出先機関は集中し、さらに新川町には秋田裁判所があり、また、秋田市水道局・文化会館・市立秋田総合病院などの施設が存在し、秋田魁新報社社屋もあって秋田市の中心的な役割を担っている。現在裁判所・市立病院の立替計画が進行している。

●「川尻」の由来

「川尻」という地名はあまりめずらしいものではなく、全国各地に「川尻」という地名は存在しています。「川」の「尻」と書くので、大きな川の上流から見たときの末端か、下流から見たときの上流に向かう水運の末端のどちらかの意味が由来であることが多いです。

わたしたちの秋田市「川尻」町という町名には「雄物川」が関係しているのではないかと考えられます。「川尻」は古くから「川尻村」と呼ばれていました。明治22年の町村制により南秋田郡川尻村という名前を経て、大正15年に秋田市に編入され現在の秋田市川尻町となりました。

●総社神社・総社の森

川尻氏の氏神としれ神明山（千秋公園台地）に祀られていたが、久保田城の築城に際して楢山の下浜に移り、宝永4年（1707年）に現在地に遷座した。伊勢神宮の多くの神を祭神とするので「総社」と名付けられた。

境内には地元の画伯が描く絵との大絵馬が掲げられている。総社の森は緑したたるケヤキの古木を中心に森をなし、現在「総社神社街区公園」として住民に清々しさと安らぎを与えている。

【詳細情報】総社神社・総社の森　〒010-0946 秋田県秋田市川尻総社町14−6　TEL: 018-863-0930

保戸野地区

保戸野地区を知る

保戸野という大字は明治22年（1889年）から使われています。歴史的に見ると保戸野は佐竹氏の居城である久保田城の西側に位置した城下町と近郊農村地区を前身としています。当時一般的には旭川より東側が内町（侍町）西側が外町（町人町）と分けられていましたが、保戸野はお城に近接した地であり、また、羽州街道が通る城下町への入り口であるため本来、町人町の区分ですが侍町とされました。

地区のキャッチフレーズは『仁風の里 保戸野』です。これは第6代秋田市長だった井上広居氏（1916年～ 1933年　在職）より地域に贈られたことば「里に仁風有り即ち太和（たいわ）」に由来しています。仁風とは仁徳のことであり、「保戸野は思いやりの心に富む人々の住む里であり、皆が仲むつまじい」という意味を持っています。この言葉は保戸野小学校に額装されて残っていて、保戸野小学校卒業生に脈々と受け継がれています。保戸野小学校の生徒は皆仲が良く、先輩後輩に関わらず親交が深いと言われています。またその精神は保戸野の住民にも根付いており、外からやってきた新しい住人や、異動で保戸野小に赴任した先生も保戸野の人の温かさや親切心に驚くこともあるほど。地区内には保戸野小学校、秋田大学の附属幼稚園・小学校・中学校・特別支援校、聖園学園短期大学・同幼稚園、秋田県立秋田北高校、同じく秋田工業高校などの文教施設もたくさんあります。

通町商店街に代表される古くからのお店や歴史ある寺社も集中しています。

●地口絵灯ろう祭り

勝平神社で毎年5月12日、13日に行われるお祭りです。境内や参道等に約170個近い絵灯籠が飾られます。この絵灯籠は社会風刺、政治などその時の世相をネタに描かれたもので思わずクスッと笑ってしまうものも。ゆっくり歩きながら一つずつじっくりと眺めるのがおすすめです!

【詳細情報】場所：勝平神社　時期：毎年5月12.13日　連絡先：勝平神社　TEL：018-823-5225

秋田の中心部 大学生が魅力PR

県内外出身10人 サイトで公開

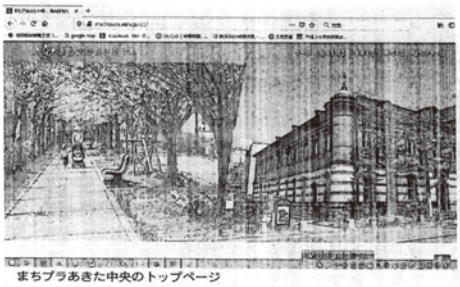
秋田市中央地域の魅力を発信するウェブサイト「まちプラあきた中央」が一般公開された。地域を構成する10地区それぞれの「PR大使」に任命された大学生10人が、担当地区の魅力を発掘し記事を投稿するのが特色だ。

中央地域には保戸野、泉、八橋、川尻、旭北、旭南、中通、築山、茨島、寺内小の10地区がある。サイトは地区ごとに、歴史や伝統行事を説明する「知る」、おいしい物や有名な飲食店を紹介する「食べる」、イベント情報を掲載する「加わる」、お薦めの散歩道や店を伝える「歩く」の4テーマで構成されている。風景や商品の写真が豊富にあしらわれている。

サイトは住民自治団体の中央地域づくり協議会が制作・運営。PR大使は毎日交代で1本ずつ記事を投稿する。10人の内訳は、秋田大生が5人、県立大生が4人、ノースアジア大生が1人。任期は1年。県内外の出身者がおり、県内出身者ならではの情報や県外出身者らしい新しい秋田の魅力など、幅広い視点で地域情報の発信を狙う。

大使10人は4月に決まり、記事作成の指導を受けたり、ミーティングや勉強会を開いたりした。その後、各地域を歩き回り、5月下旬から記事を投稿している。

大使のリーダー、菅原魅人さん(秋田大3年)は、自らが育った泉地区を担当している。「今まで知らなかった情報や、住んでいるからこそ取材できる情報、知り合いの人脈を使って取材する情報があり、まちプラにとっての魅力となっています」と話す。(増田祥一)



まちプラあきた中央のトップページ

人々の温かさ「家族のよう」

PR大使の大泉優夏さん(左)と菅原魅人さん

築山地区担当のPR大使、大泉優夏さん(県立大2年)の話

私は茨城県出身で昨年4月から秋田で大学生活を始めました。元々、地域づくりや地域活性化に興味があり、PR大使の活動に参加しています。

活動を始める際、地区の情報を得るために、地区の端から端まで、朝から夕方まで歩き続け、気になった店舗や素敵な場所をこれまで40カ所近くリストアップしました。また、町内会の人からもらった地区の百年史の資料を付箋だらけになるまで読み込んだり、築山小の先生方や町内の人たちに、地区の歴史や伝統、お薦めの店舗情報などを聞いたりしてきました。

見知らぬ大学生の取材に快く答えてくれるだけでなく、大学生活の話を聞いてくれたり、がんばってと温かい言葉をかけてくれたりする人が多い。家族と離れて暮らす私にとって、地区の人々が家族のように温かく、今ではこの地区に住みたいと思うようになりました。

秋田市中央地域

街の魅力 大学生が発信

県内の大学生が秋田市中央地域の魅力を取材、発信するウェブサイト「まちプラあきた中央」が公開されている。地元町内会などでつくる中央地域づくり協議会(宇佐見昭一会長)が、若者層に地域への興味を持ってもらおうと運営している。(進藤麻斗)

住民と連携 サイト開設

中央地域は保戸野、泉、八橋、川尻、旭北、旭南、中通、築山、茨島、寺内の一部の10地区でつくる。大学生10人が各地区を担当し、「食べる」「歩く」などのテーマで記事を執筆している。今月10日時点で記事51本が公開されている。ラーメン店や菓子店の商品紹介をはじめ、築山地区にある太平川沿いの生き物や街並みを取材した記事、川尻地区の地名の由来を調べた記事など、内容は多岐にわたる。

同協議会は2018年からサイトの立ち上げへ準備を進め、執筆に当たる学生を募集。今年8月に公開を始め、地域内のイベント情報なども載せている。

宇佐見会長は「若い世代に地域に関心を持ってもらい、町内活動に参加してもらうのが狙い。今後も意欲のある大学生に参加してもらい、長くサイトを続けたい」と話している。

サイトは「まちプラあきた中央」で検索すると見られる。

書店やラーメン店・菓子店…

記者10人、取材に奔走

「まちプラあきた中央」で秋田市保戸野地区を担当する秋田大教育文化学部3年の岩井保乃華さん(20)は今月2日、「ひらのや書店」を取材。店長の平野左近さん(40)に、開店した時期や自慢する店の姿など質問を重ねた。

平野さんは「祖父が開業した地域に愛される店を目指している」などと答えた。岩井さんは店内の書棚や平野さんの姿も撮影し、30分ほどで取材を終えた。

教員を目指す岩井さんは、取材活動を通じて社交性を磨こうと参加。幼い頃から暮らす保戸野を担当している。これまで10回以上取材を重ねたが、「アポイントメントを取る段階から緊張する」と話す。取材で知った店やスポットもあり、保戸野の魅力を再確認したという。「今後は人から聞いた話だけでなく、自分で感じたり気付いたりしたことも記事にしていきたい」と意気込む。

秋田大国際資源学部3年の菅原魅人さん(21)は、住んでいる泉地区を担当。サイト立ち上げ前の昨年から活動への参加を決め、取材仲間の学生を勧誘した。「新型コロナの影響で他県出身の学生が参加できなくなり、代わりの人を探すなど一筋縄ではいかなかった」と振り返る。

これまでラーメン店や酒店を取材。メディアの取材を受けない店が「小さい頃から知っているから」と取材を許してくれたことがあり、地元出身者だからできる情報発信に手応えを感じている。

他の9人とは月1回のペースでミーティングを開き、取材方法や記事の書き方について情報を共有している。「地区をまたいで『ラーメン店特集』を組んだり、2地区で一つの記事を書いたりと、他の9人と今以上に連携を深めたい」と話す。

「ひらのや書店」の平野さん(左)に取材をする岩井さん

潟上市に住む県立大生涯資源科学部3年、杉本翔陽さん(20)は旭南地区を担当。大学の授業で地域の魅力発見に取り組んだことがあり、ここで学んだ力を試したいと参加を決めた。

菓子店やコーヒー店を取材し、取材するまで知らなかった旭南地区の魅力の多さに驚いたという。「今後も自分の手で魅力を拾い上げ、発信したい」と話している。

地域情報

あす

【秋田市】▼映画鑑賞会「ケアニン～あなたでよかった～」11日午前10時～午後0時15分と午後2時～3時45分、ほくとライブラリー新屋図書館。各回先着15人。無料。申し込みは同館☎018・865・4215

【秋田市】▼ほっと広場 11日午前10時～11時半、広場(貸館)。5歳までの子どもが対象。自由遊び。保険料・表談50円。HOTの会・佐藤さん☎018・832・0584

幸せ　少し狭いが同じ2階建て。完成時期はまだ見通せないが、理想さん　種を知人からもらった。自宅跡地や仮住まいの仮設住宅で毎年

とりあえず、
まちプラってみよう。

住む土地の「こんなとこあるんだ」は、いつだってわくわくする。
そのときめきが生まれるのは、ほんの偶然の出会いだったり、
知らない誰かからのおすすめだったり。
小さなそれらが積み重なっていくうちに、
だんだん自分とまちがリンクしていくのが分かる。
身近なものほど案外見落としがちだったのだと、
頭で分かってはいたけれど、最近は特に思う。

この土地に住み始めてしばらく経つけど、
はやくこのまちを、私のまちだと自慢できるようになりたい。
さぁ、今日も秋田を歩いてみよう。

まちプラあきた中央

中央地域づくり協議会主体　〒010-8560 秋田県秋田市山王一丁目1番1号秋田市役所中央市民サービスセンター内3階 ☎018-888-5644

まちプラあきた中央は、秋田市中央地域における
「情報」と「人」の新たな循環を生み出すことで、
住民主体の地域づくりを応援するウェブサイトです。

QRコードからもサイトをチェック♪

まちプラあきた中央

中央地域づくり協議会とは

秋田市役所内にある中央市民サービスセンター（愛称　センタース）施設の運営・管理を市から指定管理者として委託されております。秋田市の中央地域における住民自治の担い手となり、住民相互の交流をはかりつつ、地域の諸課題の解決に取り組み、住みよい地域づくりを推進することを目的として、中央地域の中通・築山・保戸野・旭北・旭南・川尻・茨島・泉・八橋・寺内小学区の10地域の町内会連合会や、社会福祉、ご利用者、スポーツおよび子育て関係団体等の代表者が理事として構成されております。平成27年8月28日に設立され、平成28年5月6日にセンタースが生涯学習機能等を備えた新組織として活動が開始されました。

中央地域づくり協議会　理事・監事

令和3年3月15日現在

役　職	氏　名	地　区	所属団体
会　長	宇佐見　昭　一	保戸野	保戸野地区町内会連合会理事
副会長	佐々木　政　昭	旭南	旭南地区町内会連合会会長
副会長	木　山　二　郎	中通	中通中央地区町内会連合会会長
常任理事	岩　谷　政　良	八橋	八橋地区町内会連合会会長
常任理事	藤　田　　勝	旭北	旭北地区町内会連合会会長
常任理事	菊　地　峯　生	寺内小	寺内小学区社会福祉協議会会長
常任理事	碇　屋　隆　志	川尻	川尻地区社会福祉協議会会長
理　事	袴　田　代志富	利用者	中央市民サービスセンターサークル協議会会長
理　事	佐　藤　和　雄	泉	泉学区町内会連合会副会長
理　事	時　田　　博	泉	泉地区社会福祉協議会会長
理　事	池　田　　實	中通	中通地区民生児童委員協議会会長
理　事	佐々木　洋　吉	築山	築山地区民生児童委員協議会会長
理　事	伊勢谷　順　一	築山	築山学区町内会長連絡協議会筆頭幹事
理　事	須　磨　満　彦	旭北	旭北地区町内会連合会理事
理　事	三　浦　五祚夫	川尻	川尻地区町内会連合会副会長
理　事	熊　谷　栄　助	八橋	八橋地区社会福祉協議会会長
理　事	加　藤　　繁	茨島	茨島卸町地区町内会連合会会長
理　事	志　賀　陸　郎	茨島	茨島卸町地区社会福祉協議会会長
理　事	松　木　　仁	保戸野	保戸野地区体育協会会長
理　事	宇佐美　洋二朗	寺内小	寺内小学区町内会連合会副会長
理　事	加　藤　長二郎	地区団体	秋田市生涯学習奨励員協議会会長
理　事	木　谷　久　光	地区団体	中央ブロック体育協会連絡協議会会長
理　事(兼務)	池　田　　實	地区団体	中央地域子育て支援ネットワーク連絡会会長
監　事	平　川　秀　悦		中央市民サービスセンターサークル協議会
監　事	石　田　達　郎		山王六丁目町内会会長
事務局長	藤　田　和　己		中央地域づくり協議会事務局長
まちづくり専門員	石　井　宏　典		中央地域づくり協議会非常勤職員

センタース施設ご利用案内

文化活動やスポーツ、住民自治活動など、幅広くご利用できます。
ご利用の希望する日の前月1日から予約をお受けいたします。

2020年 センタース利用状況（令和2年1月～令和2年12月）

利用団体数　7,835団体　　利用者数　73,182人

■開館時間

9：00～21：00（年末・年始を除く）

■ご利用申し込みは

中央地域づくり協議会　　TEL 018−888−5644

窓口での申し込み、または秋田市公共施設案内・予約システムからも申し込みできます。（予約システムからの申し込みは窓口での登録が必要です。）

施設利用窓口

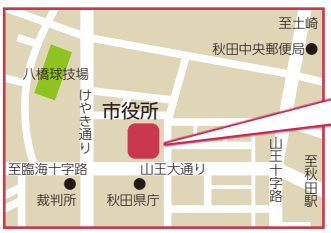
◎ご利用料金

・部屋の利用料は、営利目的でない場合は無料です。
・営利目的や、間接的営利目的の場合は、次のとおり有料になります。
※営利・非営利は施設利用受付にて判断させていただきます。　（1時間あたり）

多目的ホール	2,090円
和室	1室　210円
洋室(※洋室4を除く)	1室　210円
洋室4	1,250円
音楽室	410円
調理室	410円
陶芸工作室	410円

・次の設備を利用する際は、営利・非営利問わず設備料金が必要となります。　（1時間あたり）

多目的ホール	照明器具	50円
調理室	調理器具	150円
陶芸工作室	陶芸窯	260円

中央地域づくり協議会

〒010-8560 秋田市山王一丁目1番1号（市役所3階）
TEL 888-5644　FAX 888-5645
ホームページ　http://centers.ec-net.jp/